

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪信愛学院高等学校
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	・ベネッセコーポレーション「スタディーサポート」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度 ・ベネッセコーポレーション「GTEC（旧 GTEC for students）」におけるスコアの上昇
計画名	次世代女性リーダーの育成

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>① “誇り高い強い女性”を育成するために学力・精神力を強化すると前述したが、学力・精神力の強化とは、内部競争力を高め、進学意識を強め、達成感を持たせるように指導することと考える。</p> <p>② 「英語」をテーマにした具体的な取組みの実現 音声中心英語教育の実践による英語コミュニケーション力のアップと、受験英語への対応をおこなった。継続して実施する。</p> <p>③ キャリア支援の充実 年間を通じて、併設短期大学はもとより、教育連携を結ぶ大学を中心に、生徒の大学教育に対する理解・関心を深めるための種々の取組みを実施する。高校1年生を対象として、外部講師による講演会、大学見学バスツアー、大学体験などを実施。高校2年生を対象として、専門研究機関の協力による実験、病院や幼稚園での実習体験、農家での農業体験（春・秋）、大阪教育大学教授陣による授業シリーズ、20数校の大学・専門学校の先生方による授業体験、学問分野別説明会などを実施。高校3年生を対象として、進路説明会や「面接の為のマナー講座」などを実施した。内容を検証し、充実する方向で継続実施する。</p>
事業目標	<p>本校は、生徒一人ひとりがカトリックの精神に基づく人生観をもちそれぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図るとともに、人間としての豊かな心と主体性をもって、進んで国際社会に貢献する明朗で健康な女性に成長することをめざす。</p> <p>本校の教育の指標である「五つの心」（祈る心・学ぶ心・奉仕する心・和する心・賛美（感謝）する心）の定着度合いを検証するため、2種類の評価指標を使用する。まず、「スタディーサポート」は、現在の学力の状態と生活習慣の両方をチェックするテストであり、生徒が希望する進路をかなえるために、今、取り組むべきことが明らかになる。</p> <p>次に、「GTEC（旧 GTEC for students）」は、技能別の英語運用力を絶対評価で示されるため、生徒は日々の学習に手ごたえを感じ、教員は個々の技能別の英語レベルを確認することができる。これらのデータを ICT サービス「Classi」で管理し、教員が生徒一人ひとりの状況に応じた的確な指導を行うことで、次世代で活躍する女性リーダーの育成を促進する。</p>

	<p>具体的には、次の目標を掲げる。①「スタディーサポート」における学力の到達度ならびに学習習慣の到達度（以下、GTZ）の B2 以上を年度ごとに約 5 ポイント上昇させ、2 年後に生徒全体の 25%、3 年後に 30%を達成する。②「GTEC（旧 GTEC for students）」のスコア平均を年度ごとに 40 上昇させる。</p>
<p>整備した 設備・物品</p>	<p>ASUS Chromebook（特別教室・教員）、Chrome/Chromebook Management Service for Education、Google Chromecast Ultra（特別教室）、Apple TV 64GB（特別教室）、HDMI ハイスピードケーブル 3m（特別教室）、Buffalo 無線 LAN ルータ（特別教室）、EPSON 書画カメラ ELPDC21（特別教室）、プリントサーバ用 Windows マシン（職員室）、プリントサーバ用 24 インチ液晶モニタ（職員室）、ノート PC 充電保管庫（特別教室）、EPSON プロジェクタ（特別教室）、EPSON ワイド 82 型プロジェクター一体型ボードスタンド（特別教室）、ELECOM HDMI 変換アダプタ（普通教室）、教室天井吊りプロジェクタ用 HDMI ケーブル壁面端子増設工事（普通教室）</p>
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>取組みの主担：進路指導部 取組みの実施者：進路指導部、各教科担当者</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>◆英語 コミュニケーション英語の授業では、読解力と語彙力の強化を目的として、Chromebook で課題等を配信し、また小テスト等によって生徒の学力の定着をはかる。</p> <p>◆プラクティカル・イングリッシュ 昨年度までと同様に Chromebook を利用してプラクティカル・イングリッシュの授業の中で、生徒の 4 技能の向上をめざす。例えば、Chromebook 上で生徒提示のエッセイを読み、その後グループ討議・校正・英語でのプレゼンテーションをする。また、Chromebook を使ってオンライン英会話にも取り組む。</p> <p>◆総合的な学習の時間 高校 3 年生において、各自で設定した課題に対して論文を完成させ、発表を行った。個人ごとに Chromebook を使用し、世界中の文献を調べ、材料を収集し、論文を作成した。この論文のチェックやアドバイス、さらに論文の中間発表と最終発表についても Chromebook を利用して行った。高校 2 年生に関しては、これまで学校経営推進費で整備した Chromebook 利用のノウハウを活かして、学年全員への Chromebook 導入に踏み切り、文献を調べてまとめる力を、グループ単位から個人単位に置き換えて、書く力を養った。</p> <p>◆ICT 公開授業研究会の実施 2 月に ICT 関係企業とタイアップし、他校の先生や塾の先生をお招きして ICT 公開授業研究会を実施した。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>①英語「スタディーサポート」により、生徒の学力と生活習慣を確認する。また、「GTEC」により、技能別の英語運用力を確認する。こちらは絶対評価で示されるため、生徒の意欲向上にもつながり、教員は生徒個々の技能別能力を確認できる。</p> <p>②プラクティカル・イングリッシュ Chromebook を使って英語力向上のための様々な課題に取り組ませ、評価する。また課題を与えることにより、自宅でも生徒それぞれがデバイスを</p>

	<p>使えているかを確認する。エッセイ課題を通して、教員からだけでなく生徒同士の意見交換をする。</p> <p>③総合的な学習の時間担当教諭が、生徒に Chromebook を教材とし、以下の項目を指導・教授する。下記項目の実施状況、及び論文発表の内容を評価指標とする。</p> <p>(1)本校の図書館だけの文献からだけではなく、HP を利用して世界中から論文の資料を集めさせる。</p> <p>(2)上記(1)で収集した資料をまとめさせ、クラス内で中間発表をさせる。</p> <p>(3)上記(2)でまとめた資料を使い、中間発表でのアドバイスを参考にし、ドキュメントに論文を書かせる。</p> <p>(4)生徒への指導手段の1つに、Google Classroomを利用する。</p> <p>④ICT 公開授業研究会の実施アンケートを通して、参加した方の公開授業参加満足度を評価指標とする。</p>
<p style="text-align: center;">自己評価</p>	<p>①英語</p> <p>GTEC で、高校2年生で2018年1年時より73ポイント上昇、高校3年生で2018年2年時より88ポイント上昇。特に高校2年生は、Chromebook を使用して、オンライン英会話にも取り組み、特にスピーキングのスコアに32ポイントもの顕著な向上が見られた。例年の本校の平均的な高校2年生のGTECのスコアよりも44点高い結果だった。…………… (◎)</p> <p>②プラクティカル・イングリッシュ</p> <p>学校内外で Chromebook を使用できたことは授業改善、生徒の学力アップや効率性向上に大いに役立った。特に生徒自身の音読を録音した練習により、リスニングとスピーキングに改善が見られた。エッセイも Chromebook で随時提出させ、教員がしっかりアドバイスができたので、ライティングの改善も見られた。Chromebook 導入で、生徒自身がプレゼンテーションの数をこなすことによってスキルの上昇が見られた。…………… (○)</p> <p>③総合的な学習の時間（現：総合的な探究の時間）</p> <p>上記指標(1)～(4)の項目の実施状況は100%であり、Chromebook は論文作成・発表に役立った。その中でも、課題設定、調査、文献検索、発表についてはより効率的であった。また、情報のクラウド管理などを体験し、ICT教育としても有効であった。…………… (◎)</p> <p>④ICT 公開授業研究会の実施</p> <p>参加された方から回収したアンケートの結果、公開授業に参加した満足度は高く、本校の取り組んできたICT教育が他校、塾の先生方の期待に応えることであったと考えている。ただし、ICT教育の取り組み年数がまだ浅く、今後はさらなる発展的・汎用的な活用が求められる。…………… (◎)</p>
<p style="text-align: center;">事業のまとめ</p>	<p>前述の「本年度の取組内容」でも記載したが、高校2年生に関しては、これまで学校経営推進費で整備した Chromebook の利用のノウハウを活かして、学年全員への Chromebook 導入に踏み切ることができた。また、高校1年生や3年生に関しても、同様に学校内でICTを使用する環境を整えることができた。これらのことから、今回の学校経営推進費で整備した各種設備・物品を契機にして、本校のICT教育が大幅に進んだことは間違いのない事実である。他にも、外部の方を招いてのICT公開授業研究会を開き、その評価に関しても一定以上のものであったことも、ICT教育推進が順調に進んだことを表していると考えている。ただし、</p>

ICT については、日々変化、発展しているため、今後も教員自身が学び、自ら積極的に実践する姿勢が大切であると考えます。そのためにも、ICT 公開授業研究会などを年間行事予定に組み込み、担当者が日々研鑽できるようなシステムを構築していく予定である。